職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
大阪ハイテクノロジー専門学校		昭和62年4月1日	橋本 勝信	〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人 大阪滋慶学園		昭和62年4月1日	浮舟 邦彦	〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
農業	工業専門課程	人工知能学科	令和 3(2021)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	身の回りのあらゆるものにAI(人工知能)が搭載され、IoTと呼ばれる技術で社会課題を解決する時代が訪れている。そのような時代において課題を解決するソリューションの設計・実装・制御・拡散を総合的に実践でき、新しいビジネスを創造し社会に貢献できる人材の育成を目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	本学科はハード(機械系)・ソフト(プログラム系)・ビジネス(キャリア教育・クラウドファンディング)、各分野を広く学び、卒業研究をはじめとするプロジェクト系授業を経て、実践力・応用力を身につけられる学科である。習得可能な資格も多岐にわたり、第2種電気工事士・3次元CAD利用技術者・基本情報技術者試験・G検定・AWSクラウドプラクティショナー・知的財産管理技能検定などがある。 23名入学 17名卒業 5名退学(退学率21.7%)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入	3,210 単位時間	1,185 単位時間	450 単位時間	2,010 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
120人	21人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		17	人			
	■就職希望者数(D)		15	人			
	■就職者数(E)		15	人			
	■地元就職者数(F)		5	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		33	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		89	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	(令和 5年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) IT業界:(株)サードウェア・(株)PSC・(株)VORTEX・(株)リームキャリア・(株)アピスト・(株)日本テクニクス・(株)CRISトールウェア メーカー:(株)フジサ・ワマルセン・ダイキン工業(株)アウトソーシング:(株)アスパーク・(株)エヌエス・(株)ワールドインテック インフラ:西日本旅客鉄道(株)					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 受審年月: 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL: https://qaphe.com/result/techgraduate/osaka-hightech/						
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-hightech.ac.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		3,210 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
うち必修授業時数		240 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		240 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
うち必修授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人				
	計		3人				
	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

人工知能(AI)やロボット関連分野は最先端技術の一つであり、その進歩は非常に速く、生成AIのように、従来の認識を越える新しいシステムが実用化している。専門学校においてこのような技術を教授するには、産業界や学術関連の新しい情報を常に収集し、求められる技術の習得やカリキュラム編成に反映させることが重要である。またコミュニケーション能力などの社会人として必要な基礎力についても、業界からの意見を反映して教育指導にあたらなければならない。業界等の意見を計画的に収集する手段の一つとして、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたっては学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 勝信	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
福士 暁也	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
安達 隆之	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
矢野 昌人	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
井上 佳子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
鈴木 次郎	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
川村 智広	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤江 洋志	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
澤田 正二	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
泉谷 信行	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
関谷 俊範	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
尾沢 怜子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
上田 忠佳	物産アニマルヘルス株式会社開発本部 池田動物細胞医薬センター 主席部員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
永井 慎	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 理事 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科 准教授	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
赤澤 夏郎	株式会社プレンプロジェクト 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
鈴木 謙三	マテック八尾(八尾経営・技術交流会)会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
影石 言光	滋賀県運動・スポーツ実施率向上検討委員会委員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
中武 大輔	株式会社 サップス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
田村 智雄	公益社団法人 大阪府柔道整復師会 淀川支部	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
乾 紘	株式会社GENKI	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
尾崎 卓宏	ホリスティックメディカルジャパン 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志和 輝彦	有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
丹波 徹二	公益社団法人 大阪府鍼灸師会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
嶋田 琢磨	しまだ鍼灸訪問治療院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

杉浦 正人	関西医科大学香里病院 臨床工学技士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
宮本 哲豪	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会理事 理事 在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院(課長)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
小嶋 宏典	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院 医療技術部 臨床工学課 課長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
徳永 政敬	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
村川 圭三	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤田 秀樹	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会 副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
氏浦 亜由美	マイヘルスクリニック 心斎橋院 放射線科 技師長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
福西 康修	公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部 幹事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回の実施(6月・1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月27日実施 18:30～20:10

第2回 令和6年1月18日 18:30～20:10

第1回 令和5年6月30日実施 18:15～20:10

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

英語教育の充実: 提案を受けカリキュラムに英会話を新設。既存科目でも授業内容で英語文献の購読を加味

実績をアピールする仕組みづくりが肝要: 関連科目に於いてのプログラミングコンテストやデザインコンテストの参加。プロジェクト系授業とロボット部の活動を介しての、外部イベント(MakerFair, AIハッカソン, TechSeeker HACKATHON)参加

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界ニーズとしては、高いプログラミング能力はもちろんであるが、様々なデバイスを通して動かすことや、それに伴う機器等への理解、顧客や市場への意識も求められる。また、ハードからソフトまで幅広く学ぶ学科特徴から、本校の学生の興味と適性も多岐にわたる。そこで、企業等の選定にあたっては、幅広い業界・業務内容から、適正な技術レベルの高さと若年者への教育指導力のあるところを選んでいる。実際の研修内容に関しては、企業等の現場指導者と事前に打ち合わせを行い、学生の志向性や能力レベル等も含めて研修プログラムを策定していただき、評価法についても事前に企業等にも理解をいただくようにしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等の現場で、指導者のもと就業体験を行う。この間は企業等の従業員と同様のタイムスケジュールで行動する。研修前の事前指導では、専門知識・技術の復習はもとより、研修の心構えや取り組み方、ビジネスマナーなど社会人としてのマナーやコミュニケーションについて指導を行う。研修終了後は報告書を作成し、下級生を対象とした報告会を実施している。さらに研修先を訪問してヒアリングを行い、次年度以降の教育に反映する。また評価においては評価表を提示し、学生個々の評価をお願いしている。学校より、外部研修等の依頼においては、学校法人とは直接的な関連の無い企業等を選出し依頼している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	企業や公的機関の業務を体験し、専門技術・コミュニケーション能力・マナーなど、社会で活躍するための素養を育成する。	株式会社プレンプロジェクト、株式会社STARRYWORKS、株式会社エフエスティ、株式会社 HCI、株式会社ブリッジ・ソリューション他(全12社)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

IT・ロボット分野の進歩は非常に早く、幅広い分野で実用化が進んでいるため、教員自身が専門分野について学ぶための研修の充実が必要である。また、学生の変化(学力、意欲等)も多様化しているため、授業の方法などについても新たな取り組みが必要である。これについては学校内にFD委員会を設置し学科教員を対象とした研修を実施している。学校内および学園内で実施する研修は原則として参加が義務付けられており、学外で実施される研修については、教員の代表者が出席してその内容について会議等で報告することとなっている。研修に於いては、学校法人 大阪滋慶学園 教員研修規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AWS Academy Cloud Foundations	連携企業等:	Amazon Web Service
期間:	2023/4/1-2024/6/30	対象:	情報系インストラクター
内容	AWS(クラウドコンピューティングサービス)の利活用についての自己学習型コンテンツ		
研修名:	TechFUL Coding Battle	連携企業等:	444株式会社
期間:	2023/4/1-2024/6/30	対象:	情報系技術者
内容	プログラミングスキル向上を企図したオンラインプログラミングコンテスト		
研修名:	JASPAセミナー	連携企業等:	日本福祉用具・生活支援用具協会
期間:	2024/1/16	対象:	介護ロボット関連技術者
内容	令和6年度介護報酬改定「福祉用具の見直し・介護ロボット・ICT等のテクノロジーの活用促進」について		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	カウンセリング研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023/9/6, 9/26	対象:	専修学校教員
内容	カウンセリングマインドを意識した学生指導について		
研修名:	国家試験研修会	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024/7/2~10/31	対象:	専修学校教員
内容	資格試験合格率向上に向けての対策		
研修名:	専門学校教職員向けセミナー	連携企業等:	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	2024/1/25	対象:	専修学校教員
内容	「ミスマッチを起こさない就職支援」:外国人留学生の「就職」		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	SIGNATE Cup: データサイエンティストのオンラインコンペティション	連携企業等:	テクノプロ・デザイン社
期間:	2024/08/01 - 2024/08/31	対象:	情報系技術者
内容	顧客データを元にした旅行パッケージの成約率を予測モデル		
研修名:	Kaggle Learn [ISIC 2024 - Skin Cancer Detection with 3D-TBP]	連携企業等:	Alphabe
期間:	2024/07/31 - 2024/08/31	対象:	情報系技術者
内容	3D写真から皮膚がんの症例を識別するアルゴリズム開発		
研修名:	Kaggle Learn [Intro to Machine Learning]	連携企業等:	Alphabe
期間:	2024/10/01 - 2024/10/31	対象:	情報系技術者
内容	機械学習モデルの構築		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	進路アドバイザー研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024/8/27	対象:	専修学校教員
内容	進路変更のコンサルティングスキルの向上		
研修名:	カウンセリング研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024/9/5, 9/25	対象:	専修学校教員
内容	カウンセリングマインドを意識した学生指導について		
研修名:	専門学校教職員向けセミナー	連携企業等:	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	2024/08/01-2025/03/31	対象:	専修学校教員
内容	外国人留学生の就職支援		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもある。
本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報
(3) 教育活動	学科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配
(4) 学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5) 学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11) 国際交流	国際交流の取組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
福永 かほる	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
福菅 英子	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
久保 みのり	近隣関係者(北中島社会福祉協議会)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域代表
高橋 絵吏	大阪信愛学院中学校高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校
胡本 晃敏	生命工学技術科卒業生 上野佐藤株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
木村 政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
小西 正和	ナカライテスク株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
坂本 俊雄	一般社団法人 i-RooBO Network Forum	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
臼井 達矢	学校法人 大阪成蹊大学	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
尾藤 何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
堀口 正剛	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
山本 桂	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会(医療法人 蒼龍会 井上病院)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
難波 昭典	八尾市立病院 放射線科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自己点検・自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革、教育システムと教育
(2) 各学科等の教育	学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
(3) 教職員	教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義・業界講演、海外研修、卒業研
(5) 様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設・環境
(6) 学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート、修学支援新制度対応
(8) 学校の財務	法人財務状況
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	社会貢献・地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータベーシック実習Ⅰ	PCの基本操作から始まり、Excel・Wordを用いた基本操作ができるようになる。	1前	30	1			○	○				○
2	○			コンピュータベーシック実習Ⅱ	効果的なプレゼンテーション技能を習得するために、PowerPointを中心に作成から発表までの一連の作業ができるようになる。	1後	30	1			○	○				○
3	○			AI数学Ⅰ	AIの構築に必要な基礎的な数学理論(線形代数、解析学、確率・統計学)を、Pythonによる可視化を交えながら体系的に学ぶ。	1通	60	4	○	△		○				○
4	○			AI数学演習Ⅰ	AI数学Ⅰで取り扱う内容を、プログラミング演習形式で実践する。	1通	60	2	△	○		○				○
5	○			AI数学Ⅱ	AIの実装に際して重要となる数理モデルを、Pythonによる可視化を交えながら理解する。	2前	30	2	○	△		○				○
6	○			AI数学演習Ⅱ	AI数学Ⅱで取り扱う内容を、プログラミング演習形式で実践する。	2前	30	1	△	○		○				○
7	○			テクニカルドキュメンテーションⅠ	学び得た知識や成果を文章化し、インターネット上に公開することを通じて、自ら知識を体系化する能力、および技術を発信する姿勢を獲得・形成する。	1通	##	4			○	○				○
8	○			テクニカルドキュメンテーションⅡ	各種オープンソースプロジェクトの英文の日本語訳や、英文で記述することを通じて、グローバルなIT人材に必要とされる英語力を獲得する。	2通	##	4			○	○				○
9	○			現代AI・ロボット・IoT概論Ⅰ	現代を取り巻くさまざまな技術の概要、およびそれらの社会と関わり方を知るとともに、近未来におけるITとの向き合い方を考察する。	1前	30	2	○			○				○
10	○			現代AI・ロボット・IoT概論Ⅱ	現代を取り巻くさまざまな技術の概要、およびそれらの社会と関わり方を知るとともに、近未来におけるITとの向き合い方を考察する。	1後	30	2	○			○				○
11	○			キャリア開発講座Ⅰ	就職活動、社会人教育を踏まえ、社会人としてのマナー、自己分析や業界分析の手法、就職面接の準備を行う。	2通	60	4	○	△		○				○
12	○			キャリア開発講座Ⅱ	就職活動を踏まえ、SPI試験を中心とした筆記試験の対策を行う。	2通	60	4	○	△		○				○
13	○			ワンボードマイコン	汎用の小型マイコンボードに関して、C++を用いたプログラミング方法を習得する。	1前	30	2	○		△	○				○
14	○			データサイエンス	機械学習を行う上で重要となるデータの前処理方法、および代表的な特徴量に関して、Pythonによる演習を交えながら学ぶ。	1後	30	2	○	△		○				○
15	○			ワンボードコンピュータ	汎用の小型コンピュータボードに関して、組み込みOSとPythonによるプログラミング方法を習得する。	1後	30	2	○		△	○				○
16	○			ディープラーニング	基礎的なニューラルネットワークの仕組み、およびディープラーニングへの応用を、Pythonによる演習を交えながら学ぶ。	2通	60	4	○	△		○				○
17	○			機械学習	基礎的な回帰分析手法、分類分析手法に関して、Pythonによる演習を交えながら学ぶ。	2通	60	4	○	△		○				○
18	○			AI総合演習	機械学習に関する世界的なオンラインコンテストに出品することを通して、総合的に技術の定着や確認を行う。	3前	60	2		○		○				○
19	○			回路設計法	回路CADを用いた電子回路の設計と製造を行う。	1前	30	2	○		△	○				○
20	○			センサ工学	各種センサの特性を学び、センサを用いた回路を設計する。	1後	30	2	○			○				○
21	○			ロボットアクチュエータ工学	制御用モーターを中心に、ロボットを動かすモーターの性質と仕組み、制御法を学ぶ。	1後	30	2	○		△	○				○
22	○			力学とシミュレーション	ロボット設計に必要な構造、リンク機構などの設計手法を習得する。実際に設計した構造をシミュレーションにて確認する。	1通	60	4	○	△		○				○
23	○			電気電子回路Ⅰ	アナログ回路や部品の特性を理解し、回路設計の仕組みを学ぶ。	1通	60	4	○			○				○
24	○			電気電子回路実習Ⅰ	電気電子回路Ⅰで得た知識を用いて、実際に回路を設計し、動作確認を行い知識と技術を定着させる。	1通	60	2				○	○			○
25	○			電気電子回路Ⅱ	発振回路や微分積分回路などより応用的な回路設計と計測方法・解析方法を学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
26	○			電気電子回路実習Ⅱ	実際に組んだ回路の計測・解析を行い、理論の確認を行う。これを通してより深く回路設計について理解し定着することを行う。	2前	30	1				○	○			○

27	○		2D CAD I	2DCADソフトを用い基本的なソフトの扱い方を取得し、平面スケッチの手法を身につける。	1通	60	2				○	○	○				
28	○		3D CAD I	3DCADソフトを用い、単純な立体物造形から、基本的な操作方法を習得する。	1通	60	2				○	○					
29	○		2D CAD II	2DCADソフトを用い、より高度な平面スケッチの技術を身につける。NCマシンやレーザーカッターを用いた作業も行う。	2通	60	2				○	○					
30	○		3D CAD II	3DCADソフトを用い、より複雑な立体物造形の手法を習得する。	2通	60	2				○	○					
31	○		バックエンド・プログラミング	Amazon Web Serviceを用いたクラウドの構築方法、およびPythonによるサーバーサイド・プログラムの実装方法を習得する。	2前	60	2				○	○					
32	○		フロントエンド・プログラミング	HTML/CSS/JavaScriptの基礎を学ぶとともに、WebベースのUI/UXの構築方法を習得する。	2前	60	2				○	○					
33	○		AIエッジデバイス	小型マイコン/コンピュータボードを用いた、AIソリューションの実装方法を習得する。	2前	60	4	○		△	○						
34	○		IoTサービス	小型マイコン/コンピュータボードを用いたセンシングデバイスの実装方法、およびクラウド上へのデータ蓄積、WebベースのUI上での可視化方法を習得する。	2後	60	4	○		△	○						
35	○		ロボット制御工学	伝達関数やラプラス変換などの取り扱いを学習し、ロボットのアクチュエータ設計や解析ができるようになる。	2前	30	2	○	△		○						
36	○		デジタル電子回路	ノイマン型コンピュータの基本的な構成を理解する。論理回路を設計する手法を取得する。	3前	30	2	○	△		○						
37	○		通信方式と信号処理	現代の無線通信基盤を支える通信技術を学習する。無線変調・復調を行うハード・ソフトの仕組みを理解する。	3前	30	2	○			○						
38	○		プロダクトデザイン	ハードウェアを設計する上で必要となるデザインの基礎知識を学習する。	3通	##	4				○	○					
39	○		インターンシップ	企業や公的機関の業務を体験し、専門技術・コミュニケーション能力・マナーなど、社会で活躍するための素養を育成する。	2後	##	8				○		○	○	○	○	
40	○		国際ロボット特論	国内外のロボット技術を体感させ、将来の技術者としての視野を広げさせる。	2後	30	2	○		△	○						
41	○		クラウドファンディング	アイデア創出からインターネットを利用した収益モデルの構築（マネタイズ）までの製品開発のプロセスを、クラウドファンディングに起案することで学ぶ。	3通	##	4				○	○					
42	○		コンピュータサイエンス総合演習	プログラミング能力の総合的な知識と技術の習得と定着をオンラインコンテストに応募することを行う。	3前	60	2				○						
43	○		ロボットプロジェクト	課題、外部イベントまたは学外との連携によるロボット制作に取り組み、企業等での学外実習を通じて、ロボット制作の総合的技術の習得を図る。	1通	##	4				○	○					
44	○		課題研究	身の回りや社会の問題を発見し、これまでに学んだ知識・技術を活かして、問題解決に向けた研究テーマの構築・検証を行う。	2後	60	2				○	○					
45	○		卒業研究	課題研究の内容を受け、身の回りや社会の問題を発見し、これまでに学んだ知識・技術を活かして、問題解決に向けた研究に取り組む。	3通	##	20				○	○	○	○	○	○	
46	○		電気工事士対策授業	電気工事士2種取得に向けた、演習と実技を行う。	1前	30	1				○		○				
47	○		知的財産管理技能検定®対策講座	知的財産管理技能検定3級対策を通して、特許や実用新案、著作権や商標権、意匠権といった知的財産に関する基礎的な知識、およびハードウェア、ソフトウェアそれぞれに特有なライセンスの考え方を学ぶ。	1前	30	2	○	△		○		○				
48	○		特許管理士対策講座	特許管理士初級対策を通して、知的財産に関する基礎的な知識と申請業務について学ぶ。	1前	15	1				○		○		○		
49	○		TOEIC®対策講座	コミュニケーションツールとしての英会話力の必要性を重視し、基礎的なビジネス英会話を習得するためにTOEIC対策を兼ね、英語のリスニングを中心に英会話力の基礎を身につける。	2前	30	1				○		○		○		
50	○		技術英語能力検定対策講座	技術英検4級合格に向けた授業を通し、基礎的な工業英語の取得を目指す。	3前	30	1				○		○		○		
51	○		3次元CAD利用技術者試験対策講座	3次元CAD利用技術者試験2級の合格を目指した対策授業を通して、3次元CADの基礎知識を取得する。	1後	30	1				○		○		○		
52	○		IoT検定対策授業	IoT検定のプロフェッショナル・コーディネータ試験合格、パワー・ユーザ試験グレードCの対策授業を通して、幅広いIoT技術に関する知識の取得を目指す。	2後	30	1				○		○		○		
53	○		AWS認定クラウドプラクティショナー対策授業	対策授業を通して、AWSクラウドの知識とスキルの習得を目指す。	3後	30	1				○		○		○		
54	○		JDLA Deep Learning for GENERAL対策授業	対策授業を通してディープラーニングに関する知識と技術の習得を目指す。	3後	30	1				○		○		○		
55	○		基本情報技術者試験対策講座	対策授業を通して、IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身につける。	3後	30	1				○		○		○		

56		○ 英語ベーシック	高校英語レベルを出発点として大学編入学試験において必要な英語の基礎を身につける。	2後	30	2	○			○	○	
57		○ 数学ベーシック	高校数学 I レベルを出発点にして大学編入学試験等に必要な数学の基礎を身につける。	2後	30	2	○			○	○	
58		○ 物理ベーシック	高校物理レベルを出発点にして大学編入学試験等に必要な物理の基礎を身につける。	2後	30	2	○			○	○	
59		○ 英語演習	想定される編入学先大学における、過去問題を演習する。	3前	30	2	○			○	○	
60		○ 数学演習	想定される編入学先大学における、過去問題を演習する。	3前	30	2	○			○	○	
61		○ 物理演習	想定される編入学先大学における、過去問題を演習する。	3前	30	2	○			○	○	
合計					61	科目	161	(3645)	単位	(単位時間)		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業時に必要な時間数は3240時間とする		1学年の学期区分	2期
履修方法：各科目規定時間数以上出席し試験評価等で合格基準を満たすこと		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。